



口加だより

平成28年12月22日発行
長崎県立口加高等学校
第9号

あやめが丘の窓から

一座建立

校長 下 釜 祐 保



今年も年末が迫った。遠くからベートーベンの「第九」が聞こえてきそう。ベートーベンが30年の歳月をかけて作曲した生涯最後の交響曲らしい。一曲に30年とは驚きだ。はやり凡人ではなかったのだろうが、この間、何度もあれこれ考えに考え抜いて作り上げたのであろう。

ベートーベン、コーヒー好きでも知られている。1杯のコーヒーにぴったり60粒の豆を使用したそう。目は見えなくても、1粒ずつ確認していたとか…。

1曲にかける情熱、コーヒーの1粒へのこだわり。勝手な想像だが、ベートーベンの生き様みたいなものを教えられる気がしてならない。

11月の菖蒲祭で茶道部の生徒がお点前を披露してくれた。作法やしきたりに習い、時間をかけて一杯のお茶を入れてくれた。茶室に並ぶ全員の視線を浴び、緊張しながら、一生懸命に入れてくれる手さばきが印象深い。その世界に詳しくないのだが、いただいた茶碗を3度まわして、一服頂戴した。

茶道の心を表わす「一期一会」に似た言葉で「一座建立」(いちざこんりゅう)という表現がある。茶道での主人と客の一体感に焦点をあてた言葉である。たった一服のお茶のために主人は、さまざまな趣向や工夫を凝らして茶室をしつらえ、道具を組み合わせ、心を尽くしたお点前を出す。提供される側も客という立場を越えて、その瞬間を大切に互いに尊重しあう気遣いが重視された教えである。

一座に居合わせた者が、互いに相手を尊敬し、心合わせ質の高い時間と空間を共有しようという気持ちがあって初めてその世界の素晴らしさや尊さが生まれる。

ベートーベンが作曲した第九にも、ベートーベンが飲むコーヒーにも、茶道部が披露したお点前にも、共通するものがある。誠心誠意心を込め、時間をかけ、提供するものとされるものが互いに尊敬しあう空間とそのための準備がほんものでなければ事は起きない。

この1年間、生徒諸君もいろんな局面で、いろんなことを思い考え、全力を振り絞って今日に至ったに違いない。今日はそれを振り返る終業式だ。

来たるべき新年も、「一座建立」の精神で生き抜きたい。



学年だより

～第1学年より～

今年も残りわずかとなりました。クリスマスにお正月と楽しい季節になりますが、その分誘惑も多い季節です。羽目を外しすぎないように高校生らしい生活を心掛けて欲しいと思います。冬休みにも補習が設定されており、まだまだ休まることがないですが、最後まで一生懸命頑張りましょう！そして、1年間の節目に来年の目標を決めてみてください。私も数年前まで「何事からも逃げない！」という目標を毎年掲げていました。その頃はまだバレーの現役で、仕事とバレーと家庭との両立に悩んでいました。それでも逃げなかったからこそ良い経験がたくさんできましたし、嘘と同じで、人間1回逃げると次も逃げたくなるものなので…今は毎日を生きることで精一杯ですが(笑) 久しぶりに今年は何か目標でも決めてみようと思います。

最後に、年末のお忙しい時期の三者面談など多くの学校行事、そして日頃からのお子様への励まし、本当にありがとうございました。1学年担当教員を代表してお礼申し上げます。

それでは良いお年をお迎えてください。

(1学年主任 松本 辰哉)



～第2学年より～

『3年生“0”学期』

2016年もまもなく終わります。ついこの間入学したと思ったら、来年はもう最上級生となる年です。2年生3学期というのは、「3年生“0”学期である」とよく言われます。学校の「顔」である最上級生になる準備期間として位置づけられるからだと思います。また、3年生となれば、進路決定が第1の目標となります。各方面で「受験」があります。受験まであと1年あるとは思っていませんか？就職・公務員試験は8月から、専門学校推薦入試は9月から、大学推薦入試は10月から、センター試験は翌1月ですが……。入試の形態によっては、3年生となって4ヶ月、高総体が終わって2ヶ月で入試という人もいるということです。実は、時間はありません。3年生になってから考えるのでは遅いのです。この3年生0学期をどのように過ごすかで、進路実現の内容が変わってくるといっても過言ではありません。具体的な志望校は考えていますか？

(2学年4組副担任 田中 秀和)



～第3学年より～

今年も残すところあと10日程になりました。これから受験を控えている人は、いよいよラストスパート、まさに勉強に「励む」日々を送っていることでしょう。

ところで、国語学者の金田一春彦博士は、著書『日本語』の中で、この「励む」に対して「いそしむ」を例に挙げ、いかにも日本語らしい言葉であると述べています。「励む」は、がむしゃらに働くことで、「いそしむ」は、働きながら働くことに喜びを見出しているニュアンスがあり、働くことを愛する日本人だからこそ、このような言葉ができたのだと。

確かに、「いそしむ」と言えば、嫌々ながらではなく、積極的に、喜びを感じながらいそいそとやっている様子が浮かんできます。いかにも勤勉な日本人ならではの言葉という感じがします。なんだか、勉強も、喜びを感じながらいそいそと取り組めば、ますます実力がつきそうです。

さて、高校生活最後の冬休みを迎えます。受験に向けて勉強に「いそしむ」生活を、また、卒業後に親元を離れる人は手伝いに「いそしむ」生活を送ってみてはいかがでしょうか。

(3学年2組副担任 久部 利恵子)



2学年修学旅行～東京へ3泊4日の旅～

12月6日(火)～9日(金)の期間、2学年が修学旅行へ行ってきました。4日間とも天候に恵まれ、研修や移動をスムーズに行うことが出来ました。第2回となる東京座談会では、4人の先輩方のお話から、母校や後輩への温かい気持ちが伝わりとても励みになりました【参加して下さった先輩方：福田健蔵さん(S40卒)、平野康博さん(S43卒)、松尾美和さん(S43卒)、岸則子さん(H6卒)】。



～修学旅行を終えて 生徒たちの感想～

○1日目 語学研修を受けて：伊崎 凌さん

『語学研修は、思っていた以上に楽しく、外国の方がたくさん話しかけてくださり、英語が少し楽しいなと思うことができました。』

○1日目 劇団四季「リトルマーメイド」鑑賞を終えて：和田隆誠くん

『始まる前は正直2時間半は長いなと思っていたけど、終わってみるとあっという間でとてもおもしろかったです。またプロの演技をじっくり見られてとても良い刺激になりました。』

○2日目 都内班別自主研修を終えて：小山純奈さん

『できる限り交通費などは使えるサービスを存分に利用して節約したり、待ち時間が発生しないように前もって混雑する路線・時間帯を避けて計画を立てたりしながら進めました。その結果、時間的理由で断念しようかと考えていたところもまわることができました。』

○2日目夕食「第2回東京座談会」に参加して：井上真由さん

『岸さんの「今の自分が未来をつくる」という言葉に) 何度失敗をしても挑戦し続ければ夢をつかめるから、あきらめず今日の前にあることから頑張っていきたいと思いました。』

○3日目「キャリア講習プログラム」を受けて：金子直樹くん

『「ディズニーランド人気の秘密」についていろいろな事が学べた。常に相手のことを考えて行動することで気配りなど細かいところまで徹底しているのすごかった。』

校外の行事など

税の作文コンクール授賞式

1年生全員が夏休み課題として取り組んだ、国税庁主催の「高校生の税の作文コンクール」の表彰が、11/28(月)に校長室にて行われました。1-1大崎香乃さんと1-4林田花季さんの両名が島原税務弘報協議会優秀賞を受賞しました。



歳末助け合い街頭募金

12/1(木)に口之津・加津佐で毎年恒例の街頭募金を行いました。手がかじかむ寒さの中、お子さんからご年配の方までたくさんの方々のご協力により、校内募金と合わせて97,328円もの金額が集まりました。社会福祉法人長崎県共同募金会へ振り込ませていただきます。ご協力ありがとうございました。



今月の生活創造コース

3日(土) 口之津図書館クリスマスおはなし会(2年)

手作りのペープサート「くいしんぼうのはなこさん」とブラックパネルシアター「からかさのおよめさん」の実演をしました。



10日(土) 家庭科技術検定(洋服1級)(3年)

13日(火) 若木保育園実習(3年保育選択)

クリスマスプレゼントとして各クラス向けに大型絵本の読みきかせの実演を行いました。



調理室のガスコンロが新しくなりました!

長崎県LPガス協会より、調理室のガスコンロ11台を寄贈していただきました。長崎県LPガス協会では、安心してLPガスを使えるよう、公共の施設に安全装置付きガスコンロを寄贈し、設置する取り組みを平成19年度から行われています。今年度、本校がその対象校に選ばれ、寄贈していただきました。

早速、生活創造コースの授業や1年家庭基礎の授業で使わせていただいています。大事に使ってまいります。



職員ペンリレー 藤本 和弘先生

先日、我が家の次男の通う幼稚園の「クリスマス会」(文化祭みたいなもの)に行きました。年中クラスの出し物は「小人のくつ屋さん」のオペレッタ。材料の革も買えないくらい貧しい靴屋のおじさんが寝てしまっている間に、小人たちが靴を作り上げ、その靴が売れて少しずつ暮らし向きが良くなるお話です。次男は小人の役をかわいらしく演じ、ほっこりと温かい気持ちになりました。

普段の平日はこの子が朝寝ているうちに出勤し、夜寝た後に帰宅することが多く、なかなか一緒に食卓を囲んだり、話を聞いてあげたりする機会がありません。週末は「補習(試験)があるから」「部活(試合)があるから」「ごめんね」と言って家にいないことが多いので、お父さんと遊びたい盛りの次男には申し訳なく思います。

もうすぐクリスマス。子どもたちのプレゼントのリクエストが何かはわかったのですが、ゆっくり買い物に行く暇がないため、インターネットショッピングで調達しました。こういう便利なものがあって助かります。しかし、よく考えてみると、こういう注文が増えれば増えるほど、運んでくる配送業者の方々の業務量が増すばかりだと思えば、これもまた申し訳なく思います。サンタクロースはお父さんでなく、働くすべての勤労者であるように思えます。

忙しく働く方々に、仕事のアシストをしてくれる小人が現れますように。メリー・クリスマス。